

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4191400011		
法人名	社会福祉法人天寿会		
事業所名	グループホーム つばき		
所在地	佐賀県東松浦郡玄海町大字平尾380-8		
自己評価作成日	平成28年11月14日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/41/index.php?action_kouhyou_pref_topjigyosyo_index=true
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成28年12月16日	外部評価確定日	平成29年1月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>1、月に1回のグループホーム会議では、各入居者のリスクを話し合う事で情報の共有とリスク回避に繋がり、開所より現在まで転倒による骨折事故は起こっていません。</p> <p>2、職員のレベルアップを図る為に併設されている施設での研修会に月に1度参加しています。又、グループホームでの取り組みの実績を法人内での研究発表や外部での研修会にて発表しています。又、キャラバンメイトの資格を持った職員が地域へでむき認知症サポーター講習を開催し地域の方に認知症の理解を深めています。</p> <p>3、年に4回程度の家族会と2カ月に1度の運営推進会議を行い、地域やご家族との交流を深めると共に開かれたホームを目指しています。行事でも、家族様と準備や片付けまで職員と協力して行っています。家族会の参加率もよく、だいたい7家族程度(全体の7割～8割)が参加されています。</p> <p>4、入居の際には、なじみの家具や布団を持ってきて頂く事で家庭からの継続した暮らしができる工夫を行っています。</p> <p>5、専門職を多く配置し、正看護師・精神保健福祉士・栄養士・認知症リーダー研修・介護福祉士(4名)質の高いケアの提供に努めています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所が力を入れている点には「利用者にとって」が中心にあり、全ての職員はそれを見失うことなく日々のケアに励んでいる。例えば、日中の過ごし方をみて利用者ごとに様々である。共同生活はしているが、それぞれの想いや興味が汲み取られることによって自由な暮らしができています。日々の関わりの中で培われた信頼関係と基本精神のEKAO(笑顔・気配り・安全・おもてなしの心)がうかがえる。また、職員の業務は多岐にわたるが、柔軟な姿勢がアイディアと工夫に繋がっている。記録簿等を連動させ記入作業を効率的に行っていることや、現場の職員が使いやすく分かりやすいようにと考案された様式があることもその例である。開設して5年だが、法人の考課制度や各々の努力が相俟って良い結果が生まれている。</p>
--

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念に基づきグループホームの目標を作成している。目標や理念は各職員が職員ノートに記載し、共有実践している。	法人が掲げる基本理念と介護サービス提供の基本精神を軸としている。更に、事業所独自で年度毎に目標を挙げ、職員との共有も図っている。職員にはノートが配られ最初のページにそれらを自書し綴じている。会議等でノートを開く度に、まず理念や目標が目に入り意識付けとなっている。専門職の資格取得者が多いことや、自らが評価シートに掲げた目標クリアに向け実践している姿勢には理念が活かされているのがうかがえる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	慰問の受け入れがある際は入居者の方に声かけを行い参加を促している。また、夏祭りや運動会を併設施設と一緒にいき、顔見知りの方との繋がりを継続し持てるようにしている。	地区の自治会に加入している。地域の情報等は町が各戸に設置した防災無線から流れ、運営推進会議メンバーやポスターから知ることもある。隣接する同法人施設と合同で開催する夏祭り等には地域住民も引き、大勢の参加で賑わっている。また、介護や福祉について不安を抱えた住民が相談に立ち寄ることもあり、丁寧な説明を心掛けている。地域における認知症サポーター講習など地道な活動も続けており、徐々に基盤が築けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトの資格を活かし、町内の方を対象に認知症サポーター研修を行っている。オレンジリングを配布し認知症の正しい理解と支援に繋げる取り組みを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	待機人数、入居者の状況報告を行っている。外部評価を受けた際は運営推進会議で報告をしている。入居者の金銭負担が少しでも軽くなるよう個々の状況に応じて対象となる制度がないか会議の中で話し合いを行い、対象となるものがあればご家族に案内している。	2ヶ月に一回、約一時間の会議である。メンバーは活発な意見交換をし貴重な機会となっている。事業所が玄海原発の立地自治体にあるため、その避難対策として要介護者数の把握が課題となっていることもこの会議でもたらされた。専門性を活かし自治体との協働が可能なことや、把握された数字は地域貢献にも役立つことなどが話し合われている。また、年度末には家族会(普段は代表者一名出席)も同席しメンバーとの交流を図っている。顔見知りとなることは率直な意見や質問の場ともなり功を奏している。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議などに参加して頂き定期的に連絡を取る手段を確保している。年1回ほど食事会を兼ねて運営推進会議を行い、ご家族からの意見を聞ける場を設けている。	町担当者とは運営推進会議以外での接点も多い。ホーム長はキャラバンメイトの資格を持ち、地域の講座等にも積極的な協力をしている。連絡事項の伝達は、通常はメールでのやり取りが主だが、電話や直接出向くこともある。事業所が入所申込者の介護保険等で問い合わせをした際には適切なアドバイスをもらっている。また、他県での痛ましい事件が報道された後、町の対策で外灯や防犯カメラ設置の案件があることも伝えられ、共に取り組む関係は築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について併設施設と委員会を設け取り組んでいる。玄関はボタンを押さないと開かない仕組みであるがベランダへは自由に入入りができる。外出も要望がある際には個別に対応を行っている。ご自分で外へ出ようとされる方に対しては、引き止めることはせず職員が付き添いを行っている。	指針があり入居時に説明も行っている。隣接する同法人施設との委員会は毎月開かれ、事業所が身体拘束をしないケアに取り組む姿勢がうかがえる。玄関に施錠はなく、仮に外へ向かう利用者があっても行動を抑えることはない。もしも不適切なケアが認められた場合は速やかに指導することの他に、職員会議の中で全員が共有し、原因を見極め、再発防止策を練ることとしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について併設施設と共に委員会を設けており、年1回勉強会を行っている。虐待につながる可能性のある曖昧な部分も職員間の話し合いを行うなどして不適切な対応にならないように意識付けを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	併設施設と連携し成年後見制度に関し勉強会を行った。また、玄関には成年後見制度についてパンフレットを設置する事で活用に繋がる働きかけを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結に際し時間を設けてご家族の不安や疑問に思われることに対し十分な説明を行い、理解を得られる様に努めている。不明な点があれば電話をして頂けるように声掛けを行い不安解消に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族代表にも運営推進会議に参加して頂き、その中で報告を行っている。職員にはグループホーム会議内や伝達ノートを使用し、管理者への報告は会議録閲覧やホーム長からの報告を行い情報を共有している。	家族の来所は多い。自己評価でも、ほぼ全ての家族と信頼関係が築けていると記している。事業所では家族との会話を特に大切にしており、何でも話して貰えるよう努めている。また、職員が同席しない家族会からの意見や、匿名回答の独自アンケートなども行っており、忌憚のない意見を出してもらい前向きに活かす体制がある。そして、事業所以外にも苦情や相談窓口があることは書類に明記され説明も行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホーム会議や年2回直属上司との面接があり、その中で職員の意見を聞く場を設けている。それ以外でも、相談がしやすい様に一緒に仕事をする際には上司から声を掛け話しやすい雰囲気づくりに努めている。	毎月一回の職員会議を朝9時から約2時間行い、休みの職員には判断を任せている。利用者個々の状況確認、研修報告等々、限られた時間を有効に使うため事務所内のホワイトボードが活用されている。事前にそこで内容が周知されるため職員は自分の考えを整理できる。最近の会議では有給休暇の取得、定時で帰る、書き物を減らす等が話し合われ働きやすい職場であることも重要視しているのがうかがえる。ホーム長は常に職員の声に耳を傾けている。法人として現場の声は管理者を通じ上席にも届く体制がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員に年間を通じた目標を立て、年2回評価を行う事で本人の実績、達成度、努力等を把握する機会を設けている。また、その評価が給与に反映されている。有給も積極的に取るように年間を通して計画を立てている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員に年間を通じた目標を立ててもらい目標達成に必要な働きかけや外部研修へ参加への機会を設け技術や知識の向上習得に努めている。又、有資格者が試験を受けようとする職員に対して勉強を教える仕組みがあり前年介護福祉士2名合格している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月1回併設施設と合同で研修を行う事や町内で行われる地域ケア会議に参加することでサービスの質の向上やネットワークづくりに努めている。又、外部研修会での交流会では施設からお金を出してもらい参加する事で他施設との講習や人脈づくりに繋がっている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始時点で困りごとがないか聞き取りを行っている。ご家庭からの延長として生活できるように家具や寝具、使い慣れたものの持ち込みの協力をお願いし環境を整えている。また、施設生活に慣れるまで面会や宿泊を勧め不安の軽減に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族と話をする機会を設けておりその中で困りごとや不安に思われている事を把握し関係構築に努めている。また、生活歴や収集した情報はケアプランに反映し情報の共有を図っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の際ケアカンファレンスを行い、ケアプランの中の優先順位を見極めサービス提供を行っている。外部サービス利用として出張理容を利用している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	各入居者の能力を活かし1人ひとつの日課づくりをめざしている。カレンダーめくり、洗濯物たたみ、カーテンの開閉など。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の際にはゆっくり過ごして頂けるよう、お茶や場所の提供を行っている。心配事や帰りたいと言われる方には声かけだけを行うのではなく、ご家族へ面会や外出の依頼を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設行事等で地域の方を招いたり、併設施設でバイキングや喫茶店など顔見知りの方と食事をしたりお茶を飲む機会を設けている。	入居までの人間関係を把握するため本人や家族はもちろん、担当していたケアマネジャー、場合によっては利用していたサービス事業所からも話を聞き情報を集めている。地域ケア会議で出会う同業種従事者とのネットワークが役に立つこともある。昔から慣れ親しんだ地域の行事(町民運動会・鬼火焚き・産業祭など)にはできるだけ足を運び関係が継続できるよう支援している。また、お盆の墓参りなども家族の協力を得ながら希望に沿っている。美容院などは以前は行きつけの店へ通う利用者もあつたが、現在は訪問理容が主になっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握し、食事の席を決めている。また、関係性が変わる事があればその都度話し合いを行い変更を行っている。食事以外の所では席を決めず入居者同士の関係の構築に繋げ孤立させないように支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスを終えた時には「困り事があつたらいつでも連絡して下さい。」と声かけをしている。実際に退去されたご家族より連絡があり「ケアマネを紹介して欲しい。」という相談を受け案内を行った。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	意見や要望についてはケアプランに反映している。生活をされる中で発生する要望についてはできる範囲でご家族に相談し協力を得ながら答えるようにしている。また、意志表現が難しい方へはご家族と話をしながら本人本位になるように努めている。	日常のケアの中で利用者が想いを話してくれる時がある。それはお風呂で寛いでいる時や、傍に座って一対一で話し相手をしている時などに多い。声の大きさに注意を払ったり、プライバシーにも配慮することを心掛けている。聞き取ったことは職員同士が口頭で伝えたり、ケース記録等に記し共有している。内容によってはプランへ反映させることもある。	
----	-----	---	---	---	--

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報を収集する際に把握し、フェイスシートや情報収集シートに反映し情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日課表に一日の過ごし方を記入している。心身状態や有する能力やリスク等は個別援助計画書に記入し定期的に見直しを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成時にはご家族からの要望も聞き課題を見出している。また、職員やご家族からの意見や情報等を聞き計画書の作成を行っている。	日々の関わりの中で本人の想いや状況、家族の要望等を把握しプランを作成している。介護計画の設定期間は6ヶ月ごととしているが変化があればその都度、臨機応変に見直している。また、家族はサービス担当者会議に同席することで、説明を受け一緒に話し合っていると認識している。例えば、水分制限がある利用者の家族は我慢させるより飲ませてほしいと要望した。これは質を重視した選択でケアに活かされている。また、残存能力の維持は本人や家族も同様で、日常の動作がリハビリとなることを意識しながら支援している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や状態、ケアプランのサービス内容の実施記録についてケース記録に残し、日勤帯と夜勤帯での情報の共有を行っている。また、ケアプランを見直す際もその記録を基に行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族からの要望等にはできる限り対応できるよう柔軟に検討を行っている。また、ご家族や地域の方も大事な資源と捉え協力が得られれば活用している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個々の入居前の暮らしを把握し本人が望むことに応じて生活の中に取り入れる工夫を行っている。(地域行事参加、なじみの店から商品購入、理容・美容の店など。)		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医の訪問が週1回ある事の説明を行いご家族、本人様に選んでもらっている。提携医以外でご家族が受診を希望される方は受診ノートを使用し情報の共有に努めている。	以前からのかかりつけ医と事業所の協力医が同じというケースが多い。馴染みの医師による医療が受けられる状況である。また、無理にかかりつけ医の変更を勧めることもない。受診に向かう場合、原則家族にも同行をお願いしている。状況に応じて希望する医師による医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要に応じ、常勤の看護師や併設施設の看護師、往診の看護師に相談、報告し指示を仰いでいる。体調不良時の受診指示があればご家族に連絡報告を行い、職員も付き添い受診を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際には定期的にお見舞いに行き治療の状況や状態、退院日の日程について情報を得ている。また、入院の際には情報提供を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化された場合でもご家族や本人の意向に沿う事を伝えており、ご家族や本人と話し合い必要に応じ地域関係者や医療機関の照会を行っている。	看取りに関する指針があり入居時に説明をしている。これまでに看取りの経験はない。看護師資格を持つ職員がいることや、協力医が24時間対応可能であることから家族等の希望があれば事業所での用意もある。また、隣接した同法人施設もあり利用者や家族にとっては多肢選択が可能である。いずれの場合でも、事業所では容態の変化に応じ何度でも話し合いを重ねることとしており、本人や家族が納得した最期が迎えられよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回併設施設と共同し緊急時対応について研修を行い対応についての実践力を身に付けている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災管理マニュアルを作成し、昼・夜間想定で年2回避難訓練を実施している。地域消防団にも協力してもらい協力体制もできている。原子力防災訓練にも年1回参加している。	年2回の避難訓練は昼間と少し暗い時間の二通りで実施している。隣接する同法人施設との合同で、火元は交互に設定され、利用者は事業所の時のみ避難を体験している。職員には一旦帰宅後に呼び出しをかけ、実際に近い形をとっている。居室の名前札を外すことで避難済みとし、一次避難場所は隣接法人の一階、地域交流スペースが充てられている。これは家族にも周知されている。それぞれに消防署や地元消防団が立ち会っているが近隣住民の参加はない。職員は消火器や火災通報装置の使い方承知しており、スプリンクラーや誘導灯の設備もある。非常食や水、寒さを凌げる物の備蓄もしている。訓練での反省点や課題は委員会で検討後、速やかに周知されており、パソコン上の掲示板にアクセスしても確認できる仕組みである。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の性格や人格を尊重し生活歴を基に声かけを行うように努めている。言葉の虐待にならないようにグループホーム会議等でも話し合っている。写真等個人がわかる物の取り扱いについては契約時に意向を確認し、同意を得ている。	仮に不適切なケアがあれば「6(5)身体拘束をしないケアの実践」でも挙げたように対応している。また、個人情報に対する職員の意識は高く、事業所外での会話にも注意を払っている。多くの事業所ではスナップ写真等の掲示があり来訪者の目に触れているが、ここでは掲示はせずアルバムで用意している。法人全体の発行物もあり入居時に承諾は得ているものの、慎重な取扱いをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の中で個々の思いや希望を聞くように努めており、話された事はケース記録に残し共有するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員本位の一日の流れにするのではなく、個々の要望やペースを大事に一日を過ごしてもらえるように努めている。日曜日は業務を軽減し要望に応えられる体制を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族の要望により髪を切る際に理容や美容どちらを利用されるのか、カラーリングの要望がある際には職員が行ない整容を整えその人らしい身だしなみをして頂けるよう努めている。必要な方に対しては、髭剃りを行い身だしなみを整えている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作成の際は、食べたいものや好きなものを聞き取り入れている。また、食事の際に食事内容を伝え食べる楽しみを持って頂いている。利用者には食器を下げる際に重ねる等して頂いている。	食事は当番の職員が一週間分の献立を考え、次に栄養士の資格を持つ職員がバランスや栄養価を計り食材を発注している。週の途中で利用者からリクエスト等があれば概ね三日程で提供できる。利用者の好き嫌いやアレルギーも把握しており、プリンやパンなども常備している。更に、アルコール・ノンアルコール類も用意はあるが普段の希望はない。利用者に食欲はあり、職員も同じテーブルと一緒に食事をしながら必要な介助も行っている。以前は準備等を手伝う利用者もあつたが、歳を重ねるごとに難しくなり、できることをお願いしている。家族が作った野菜が食卓を彩り、会話や笑い声も聞かれ和やかな雰囲気である。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食欲や飲み込む力によって量や食事形態を検討し提供している。飲み物は嗜好やその時に飲みたいもの、種類を提示し選んでもらい提供している。必要に応じご家族に依頼している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後各部屋の洗面所で口腔内のケアを行い、歯ブラシやコップ等も週1回消毒を行っている。拒否がある際は時間を置いたり対応する職員を変え行っている。			

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を個別に作成し、排泄パターンや排便の間隔、便の状態をシールで色分けし把握するようにしている。座位が保てる方に対しトイレに座ってもらい習慣をつける事でトイレでの排泄を促している。	ケアは、入居時に排尿の量を測り、状態を知ることから始まる。把握によって時間帯によるオムツ、リハビリパンツ、パット等の使い分けが可能となり、自己負担となる部分にも配慮している。排泄記録表ではパターンが分かりやすく、且つ細やかである。その効果でリハビリパンツへ改善した例もある。完全に自立した利用者も2名いるが任せたままではなく、さりげない見守りを行っている。日中は全員がトイレでの排泄である。居室には洗面台とトイレがあり、可動式ひじ掛けが便座の脇と前方にもある。この前方のひじ掛けには、もたれ掛かることにより腹圧もかけやすく体位保持にも役立っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為にこまめに水分を提供している。あまりお茶を飲まれない方には好まれる飲み物やゼリーなどを提供し水分を摂ってもらっている。毎日朝食時にヨーグルトを提供し予防と改善に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の際声掛けを行い拒否がある時は時間や日にちをずらすなど対応し個々に応じた支援を行っている。	入浴は週2回を目途としているが、希望があればいつでも可能である。脱衣場から浴室まで床暖房があり、更に浴室には遠赤外線の暖房機も設置している。入浴はリフト使用が殆どで、年々浴槽をまたぐのが難しくなっている現状の中、安全な入浴が提供できている。シャンプーやソープ類は、皮膚が弱く個別に必要な人以外は事業所で用意している。入浴剤も好評である。衣服の脱ぎ着はできるだけ本人に任せ、職員は羞恥心にも配慮しながら見守っている。広さも十分な脱衣場には大きな鏡とゆったりした椅子が置かれ、旅館を思わせる設えである。利用者はそこで髪を乾かしたり身支度を整えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具類はできるだけ持ち込みを依頼しなじみの物で気持ちよく眠って頂けるよう支援している。夜間眠れない時など昼寝をして頂くなどしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別にお薬情報がわかるようにファイリングし効果や副作用等が解るようにしている。服薬の支援についてこちらで管理を行い飲み忘れがないようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を基に個々の習慣や能力を活かした役割を持って頂き、嗜好品についてはご家族と相談を行い持って来て頂く様にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の要望に沿い戸外へ出かけられるように機会を設けている。自宅に行きたいと言われる際にはご家族に相談を行い協力を得て外出を支援している。	遠出のドライブなどは徐々に難しくなりつつあるが、それでも機会あるごとに出掛けている。車椅子対応車両が用意できることもそれを可能にしている。また、隣接する同法人施設が催すデザートバイキングなどには皆で出掛け楽しんでる。近くの店まで買物に行くこともあり、できるだけ本人の意向に沿いながら支援している。車椅子利用であっても外出を促し、全く外へ出ないという利用者はいない。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる方は買い物の際に使われたりしている。基本的にはトラブルにならないようご金銭の管理はご家族にお願いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたいと言われた際は職員が事務所にて番号を押すまでの支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	聞きなれた音が聴けるように歌番組を録画している。リビングには光を多く取り入れられるよう窓は大きく日中は明るい。居間には畳を敷き自由に使えるようにしている。ベランダにも出られ野菜を植えている事で季節を感じてもらえるよう配慮している。台所は対面式になっており作業様子や料理の香りが伝わるようになっている。玄関からは海も見える。	事業所内はどこもゆとりのある広さで設計されている。皆が集まるリビングは明るく、日差しはレースカーテンで調節しているが、冬場は絶好の日向ぼっこエリアである。一角にオゾン発生器があり除菌効果も期待できる。障子を開ければ和室もあり寛げる空間である。無用な掲示物はなく、玄関や廊下には趣きのある日本画が掛けてある。また、種類ごとに独立したストックルームがあることで整理整頓ができています。利用者の通行を妨げる障害物もない。共用部分の清掃は専門業者に依頼しており、日曜以外毎日行われているためトイレや浴室も清潔で嫌な臭気はない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファ、和室には炬燵を置き気の合った方向士で過ごして頂けるように整えている。また、和室はふすまで仕切りができる為ご家族の面会時にも利用して頂けるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋にはなるべく自宅で使用されていた家具や寝具などを持ち込み頂ける様に入居の際に話を行っている。又、家具や寝具の配置も家と同じになるようにご家族や本人様からの情報を基に配置をしている。	入居の際にはできるだけ馴染みの品物を持ち込んでもらうよう話している。火気等の危険物以外に制限はしていない。使い慣れたタンスが置かれ、冷蔵庫を持つ利用者もある。家具等の配置は自宅と同じように心掛け、安心して居心地よく過ごしてもらえるよう配慮している。居室の掃除は、以前は利用者が手伝うこともあったが徐々に難しくなり、現在は職員のみが行っている。家族の希望があれば宿泊も可能である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	現在の能力を活かし日常生活の中で役割を持って頂いている。また、部屋の中で個別に危険箇所が異なり転倒の可能性のある方は床にクッション材を敷くなど怪我の予防を行い安全に生活ができるように努めている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない